

目的 昨年が高齢者の心理的幸福を支える要因について研究を実施したが、今回は、比較的研究の遅れがちな衣生活全般に着目し、その実態を明らかにするとともに、衣生活への関心度を根底に置き、それを取り巻く基本属性や生活態度との関連について研究を行った。

方法 60才以上の高齢者427名(男性129名、女性298名)を面接法で実施した。期間は昭和62年6月～10月。

まず、衣生活の着用の分野を中心に、衣生活の関心度を各項目5点満点、計50点満点と得点化し、上位群、中位群、下位群の3段階に分けた。それを衣生活の他の分野である購入・整理、また生活実態及び意識についての関連に着目した。更に分析方法として、衣生活の関心度得点を被説明変数、高齢者の生活実態及び意識との関係度得点を説明変数として、 χ^2 検定、数量化Ⅰ類、数量化Ⅱ類を用いて分析を行った。

結果 χ^2 検定を行った結果、有意差が認められた項目は、男性11項目、女性16項目、男女21項目であった。それらの項目の中16項目を数量化Ⅰ類にかけ、更に12項目を選び数量化Ⅱ類を用いて分析した。結果は表1の通りである。

即ち被服費、購入時に考慮する点、等の他、健康状態、収入、趣味、交友関係、年齢などの基本属性も衣生活の関心度へ影響を及ぼしているという結果が得られた。

表1 数量化Ⅱ類(男女合計)

要因アイテム	範 囲	偏相関係数
年間被服費	1.295	0.406
購入時に考慮する点	1.352	0.363
交友関係	0.815	0.345
親しい友達の数	0.855	0.263
周りにおしゃれな人が多いか	0.659	0.263
余暇の過ごし方	0.202	0.107
趣味の数	0.139	0.046
衣服を新調する場合	0.683	0.212
衣服の入手方法	1.190	0.251
ファッション情報源	0.751	0.284
1か月の収入	0.633	0.243
健康状態	0.771	0.134

外的基準 関心度 下位群 122 上位群 140
相関比 : 0.619